

コロナ禍でどうなっていくのか！

「風が吹けば^{おけや}桶屋が儲かる」ということわざがあります。これは、ある事象の発生により、一見すると全く無関係と思われる場所・物事に影響を及ぼすことのとたとえです。

俗説として、「風が吹けば^{つちぼこり}土埃が立ち、視力を失う人が増加する。その人たちが三味線を生業とし演奏し指導するので、三味線の需要が増える。三味線製造には猫の皮が欠かせないため猫が多数減り、鼠が増加する。鼠は箱の類（桶）をかじることから、桶の需要も増加して桶屋が儲かるだろう」という話であるそうです。

2020年始めから新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、今までに3度も緊急事態宣言が出ました。飲食業を営む方々は、営業時間や酒類の提供の制限がされ、散々な状態であります。明和町でも各種会議が書面会議になり、夏祭りも秋の体育祭も産業祭も中止、そして各団体の新年会や総会も中止となり、飲食店は生き残りに懸命です。そのため、コロナ対策の補助金等を用意し、また明和町役場ではお昼の仕出し弁当等で僅かでも稼いで戴けるよう対策を講じ支援しております。



そして、何と言っても早くワクチンを皆様に投与し、日常をいち早く取り戻して戴くことが何よりも支援策と思っております。また、このコロナ禍の中での増収総益の職種（後述）もあり正に、風が吹けば桶屋が、、です。

【今後リモート会議は主流に？】

コロナ禍により、仕事がリモートや在宅勤務となった家庭も多くなっているのではないのでしょうか？リモートワークは外国などに比べると、相手の表情を見て商談や打ち合わせをすることが慣行の日本では、それほど普及しないと思っていました。しかし、今は多くの人がリモート会議の使い勝手の良さに触れたことで、日本の商慣習が変わる可能性は十分あると思います。



【主流になるか？リモート会議】

10年前の東日本大震災の時には、大きな変化が生まれていました。当時ツイッターは、企業や組織が活用するイメージは少なかったわけですが、地震の発生直後、電話やメールもつながらなくなった時、ツイッターがコミュニケーションの手段として機能いたしました。

震災直後には、首相官邸が災害関連の情報を発信するためにツイッターの公式アカウントを開設するなど、行政や地方自治体が次々と活用し、ツイッターが日本における情報インフラとして広がる一つのきっかけとなりました。おそらく今回のコロナが終息した後にも、同様の変化がいくつも起きると思います。「アフターコロナで今後の日本はどう変わるか？」を先回りして備えて行きたいと思います。

【DX・電気自動車などに使う高機能、高速、大容量半導体が伸びている！】

まず、このコロナ禍の中で採算に合った業種があります。家に居る時間が増えたため、家のリフォーム依頼が増えているそうです。部屋の換気、清潔、タッチレスと言った需要が喚起されリフォームに繋がっているそうです。また、家に居る環境からスーパーマーケットの惣菜がよく売れているという話も聞きます。

そして、コロナが拡大する前からパソコンや携帯電話、自動車の自動運転の世界では「5G（第5世代移動通信システム）」と言う波がありましたが、何と言ってもコロナ禍が加速させた構造変化の後押しでリモートが増え、リモートでも仕事ができることが分かっていました。そして、企業は従業員を一堂に会さなくても経営ができて利益を出せることが証明され、オフィスを小さくする企業が増えているそうです。考えもしなかったことが次々と起きております。また、株式市場ではアメリカの市場でも3万ドル台に乗せ、日本も平均株価3万円台を記録するなど驚くべきことになっています。また、株式の中で特に好調なのはDX（デジタルトランスフォーメーション）・電気自動車などに使われる半導体メーカーが高性能、高速、大容量の物が伸びているとのこと。

【新型コロナ感染症は社会の常識を変える！】

これからは、「この会社がこんなことをやるとは思ってなかった」といったことがどんどん増え、そして加速していくと思います。例えば、「家電イメージの強いパナソニックやソニーが自動車を作り始めた」というのも1つの異業種競争です。

また、近年は「シェアリングエコノミー」として、個人でモノを所有せず、必要に応じて利用するといったサービスの導入が増えているそうです。その中で「カーシェア」の利用も一般化しつつあり、個人での自動車の購入数も減っていました。しかし、コロナにより「カ

ーシェアは感染が怖い」となり、「安くていいからやっぱり自分の車が欲しい」といった意識変化も起こっているそうです。

人の流動も進み、企業側は「従業員の一生」に責任を持つのは難しいので「どうぞ副業でお金を稼いでください」と、副業を推奨することも増えると言われております。そして、年功序列制度がなくなり、成果主義を導入していくことになるでしょう。コロナがきっかけで人事評価制度を変えるという動きもでてきています。テレワークですと、普段の仕事ぶりが見えにくくなるため、やはり成果に重きを置いた評価にならざるを得なくなるのでしょう。

【町の役場も仕事を見直すきっかけに！】

そして、コロナ終息後もテレワークが一般的になれば、成果主義評価の人事制度が加速していくと思われまます。役場の仕事は、テレワークで出来るものはごく限られております。住民の皆様の意見や相談を受け機動的に機能する組織として、そして住民の皆様に安心感を持



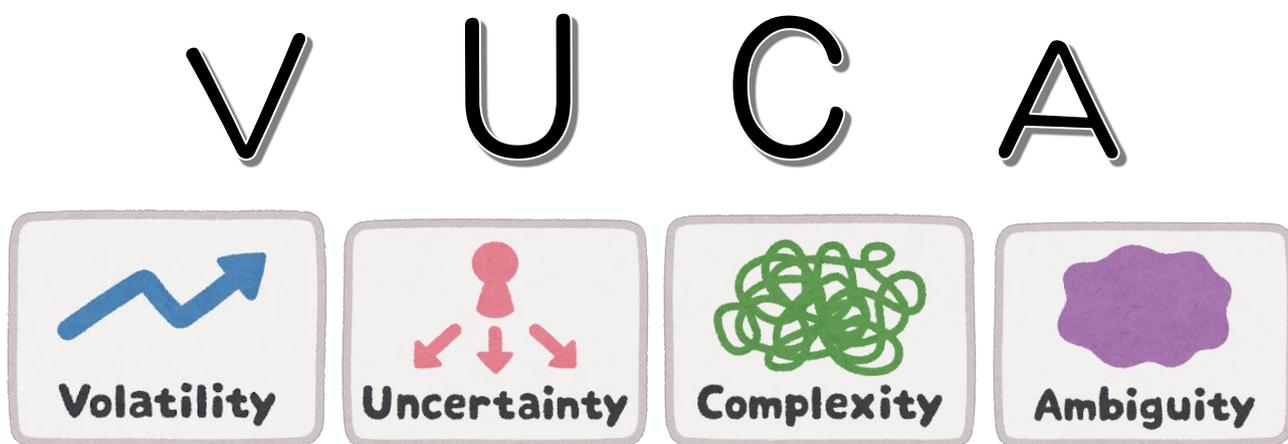
【激動の荒波に揉まれる雇用システム】

って戴くには、役場職員は密接に居る環境が必要です。町の将来像や誰もが住みたくなる町を作る仕事であるために、テレワークは一つの形態としながら、組織運営の考え方、人事評価の仕方、一つひとつの仕事の意味や成果や将来性など見直さなければいけません。

これからは、変化しなければ淘汰される時代になっていきます。今までの公務員社会は、

終身雇用、年功序列型賃金でした。大企業と共に日本型雇用システムが60年間続いてきました。しかし、大企業の人事制度は大きく変わろうとしております。終身雇用を前提とした年功序列型賃金制度と学卒一括採用からの脱却です。年齢に関係なく働ける人生100年時代に対応するためにも、年齢に依存した雇用システムからの大転換が必要となります。国も試行錯誤しながら、公務員制度の見直しを検討する時代に入っていく事は間違いありません。このコロナを契機としながら、新しい時代をどう構築するか？公務員のモチベーションを保ちながらの変革はこれからも続きます。

そして、現代はVUCA（ブーカ）の時代といわれております。VUCAとは、「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（不透明性）」の頭文字をつなげた造語であります。



コロナ禍において失業や廃業・倒産が発生して、世の中は過酷な変化が起きています。そして強い者が生き残るのではなく、変化に対応した者が生き残るのが歴史の必然であります。今後も「想定外」の事態が発生することは避けられず、企業・個人は、変化に対応するための準備と覚悟が問われます。そして、明和町もVUCA（ブーカ）の時代を生き抜く為に変更して行く事が必要になり、その覚悟を持つことが重要な鍵になると思います。

令和3年5月20日

明和町長 富塚もとすけ